



## ニュースレター 2016年 2月号

### オーストラリアの学校 教育の魅力は？

一言で言うと他民族国家ゆえの多様性。個々の個性を生かす教育。

娘は今最終学年の12年生。プレップという1年間の小学校に入る準備の学年から高校まで私立の同じ学校に通っています。(余談 ゴールドコーストは学区が無いので、親が選んで好きな学校に空きさえあれば入れます。なので転居した訳でも無いのにプライマリー、ミドル、ハイスクールと学校を変える方が主流。最初の学年プレップから12年生まで同じ学校に通う子はとても少ないので、学校側が卒業の際にその生徒と親を食事に招待して祝ってくれます。) プライマリースクールのモットーは「every child is star」でした。小学1年生の時、こちらはお母さんがボランティアでクラスを手伝ったりできるので(ブルーカード保持者のみ)私も娘のクラスに行って驚きました。この小さい歳で既に本を読める能力別にテーブルが分けられ、それぞれのレベルに合った本を読んでいた。個々のレベルを重視するから同じ学年を2回やる子もいれば、上の学年に飛び級する子も普通にいます。同級生でも同じ歳でないのも普通。親の出身国も色々だから家庭の慣習、言語も違い、単一国家の日本のように皆同じにする必要はないのです。

もう一つ面白い事例を。日本人の謙遜は誤解を招く。知り合いに「娘さん勉強はどう？進学は？」と聞かれ、悪い癖で、「so soまあまあ、どこかの大学に行けたらいいけど。。。」「と答えたら、「大学へ行くばかりが人生で無いよ。」と慰められてしまった。おいおい、私はかなり謙遜して言ったのよ... オージーは我が子の自慢こそすれ評価を落とす事は言わない、できるものはできると自信を持って答えるのが当たり前。

自分の意見をしっかりと述べられる、個性を育てるここの教育で娘を育てる事ができとても満足です。日本の学校を少し窮屈に思う方、こちらで子育てしてみたい方ご連絡お待ちしております！